

長良川デパートおすすめ商品

多種多様な
伝統工芸品や雑貨などを
扱っており、長良川流域文化を
身近に体感できる
「長良川デパート」。
2022年3月にリニューアル
され、店舗面積が以前の
3.5倍になりました

長良川デパート
オリジナルてぬぐい
6種 各1,210円
※「shooting star」のみ2,750円

レター提灯
(LEDライト付)
門松/正月/
立雛
各3,960円

うかいcookie
399円

ちょうちん
もなか(5個入)
1,080円

鍋敷き
オオサンショウ
ウオ(鉄製)
4,400円

鶺鴒いペーパーウエイト
鶺鴒:1,650円
鶺鴒と鮎:2,200円

鮎菓子
はし置き
大:1,320円
中:1,100円 小:880円

※すべて税込み



ながら、多種多様な長良川流域文化の
新たな活用を目指す体験プログラムの
見本市「長良川おんぼく」をスタート
しました。

**新たな発信拠点をつくるなど
岐阜和傘の産業再生に尽力**

「長良川おんぼく」以外にも、長良川
流域文化の新しい担い手育成や、幅広
い商品の販売で流域文化を体現する「長
良川デパート」の運営、川原町の古い
町並の古民家のリノベーション活用な
ど、NPO法人ORGANの取り組み
は非常に多岐にわたります。

その中でも近年とくに注目されてい
るのが岐阜和傘の産業再生。2022
年9月には、観光まちづくりの優れた
事例を表彰する「産業観光まちづくり
大賞」で最高位の金賞に選ばれました。

もともと岐阜和傘の生産が始まった
のは江戸時代初期。長良川流域に美濃
和紙や竹などの材料が豊富ことから
一大産地となり、現在でも日本の和傘
の約7割が岐阜でつくられています。
しかし、ほとんどが問屋に卸されるた
め、長らく地元でもあまり知られてい
ませんでした。

そこで2016年より、まず最初に
「長良川デパート」で取り扱いを開始。
高価格でありながらも好調な売れ行き
を見せ、2018年には新店舗「和傘
CASA」を核とした伝統工芸の発信
拠点「長良川てしごと町家CASA」
をオープンしました。

「モノに込められた思いやストーリー
をしつかりと発信できれば、多くの方
に興味を持っていただける。私たちの
地域が生み出した文化には、高い価値

や社会的ニーズがあると証明できた
と思います」

そのほかにも和傘づくりの体験プロ
グラム、和傘の骨やロクロをつくる部
品職人の育成サポートなどを幅広く展
開。課題の共有やビジョンの構築に
も取り組み、行政とも連携しながら、
岐阜和傘産業の持続可能なサイクルを
確立しようとしています。

**長良川流域文化の面白さが
凝縮した船遊びがイチオシ**

「一方で「長良川おんぼく」は2021
年の開催を最後に休止中。同年より、
その後継事業ともいえる「まいまい東
海」をスタートしました。

10年間続いた「おんぼく」は世界農
業遺産にも認定された長良川流域の魅
力を体験できる、期間限定のお祭りの
ないイベント。流域文化の担い手がさま
ざまな地域資源を生かして新たなチャ
レンジを行う、いわば実験場という意
味合いもありました。

それに代わる「まいまい東海」は、
特定の文化や地域が好きでたまらない
という「偏愛ガイド」による、まち歩
きを中心とした通年型のツアー事業。

「当時は『岐阜なんてなにもないよ』
という若い人が多くて、自分自身もそ
うした若者の一人だったんです」と浦
さん。「少しでも地元を誇りを持てるよ
うになりたい」という思いから、多く
に岐阜の魅力を紹介するフリーペー
パー「ORGAN」を創刊し、まちづ
くり活動を始めたことが、その後の幅
広い取り組みへとつながっていきまし
た。

「たとは上流でつくられた美濃和紙
が、水運で中流まで運ばれて提灯や和
傘に加工され、世界に向けて出荷され
ていく。長良川流域のさまざまな地域
で受け継がれてきた文化が、実は一つ
の大きなストーリーをかたちづくっ
ていたんです」

そして2011年、思いを同じくす
る仲間とNPO法人ORGANを設立。
その壮大なストーリーを土台にして、
行政や地域の旅館組合なども協働し

「まいまい東海」のコースの一つで、蒲さんも「面白さは保証します」と太鼓判を押す「長良川船遊び」。NPO法人ORGANは芸舞妓の育成にも携わっています

対象エリアも広がったことで、関西や関東など遠方の人にも岐阜の魅力を知ってもらう機会につながっています。

「とくにおすすめたかったのは、地域の誇りである鶺鴒と、芸舞妓との優雅な宴席を同時に楽しめる「長良川船遊び」です。これこそが長良川流域文化の集大成。岐阜の川漁と芸能、それに芸舞妓が身につける工芸品から地元の食と酒まで、数多くの魅力を満喫できる、岐阜でしかできない体験です」

地域のさまざまな資源やストーリーを掘り起こし、楽しい体験企画や魅力的な商品へと磨き上げていくNPO法人ORGAN。これからもたくさんの担い手や団体を巻き込みながら、このまちの文化の価値と持続可能性を高め、未来へと繋いでいってほしいです。

「岐阜と長良川に、愛と誇りを持って暮らす人を増やしたい」。

そんな思いをもとに活動している
岐阜市湊町のNPO法人ORGAN。

長良川流域に広がる伝統文化を多方面からサポートし、
新たな価値を吹き込んで産業としても成り立つ持続可能性を
高めることで、魅力あふれる未来を築いていこうとしています。

**長良川を通じてつながる
さまざまな宝物の発見**

NPO法人ORGANの理事長を
務めているのは、長良川上流の郡上
市で生まれ、小学生から岐阜市で暮
らしている浦勇介さん。2003年
に岐阜の魅力を紹介するフリーペー
パー「ORGAN」を創刊し、まちづ
くり活動を始めたことが、その後の幅
広い取り組みへとつながっていきまし
た。

の地域文化の担い手と交流し、学びを
深めていきました。その過程で、なに
もないと思っていたところに多くの文
化が眠っているのを発見。さらに長良
川に沿って、それらが有機的につな
がっている事実が見えてきたと振り返り
ます。

「たとえば上流でつくられた美濃和紙
が、水運で中流まで運ばれて提灯や和
傘に加工され、世界に向けて出荷され
ていく。長良川流域のさまざまな地域
で受け継がれてきた文化が、実は一つ
の大きなストーリーをかたちづくっ
ていたんです」

そして2011年、思いを同じくす
る仲間とNPO法人ORGANを設立。
その壮大なストーリーを土台にして、
行政や地域の旅館組合なども協働し



傘に加工され、世界に向けて出荷され
ていく。長良川流域のさまざまな地域
で受け継がれてきた文化が、実は一つ
の大きなストーリーをかたちづくっ
ていたんです」

そして2011年、思いを同じくす
る仲間とNPO法人ORGANを設立。
その壮大なストーリーを土台にして、
行政や地域の旅館組合なども協働し

右) 蛇の目傘や番傘をはじめ、バラエティー豊かな岐阜和傘を取り扱っている「和傘CASA」 右下) アンティーク着物の着付けレンタル事業「ORGANキモノ」も人気 左) 2022年10月に完成した「長良川流域文化レッドデータブック」。さまざまな流域文化の現状や課題、それらの複雑なつながりなどをわかりやすく解説しています(公式サイトニュースからPDFファイルをダウンロードできます)

information

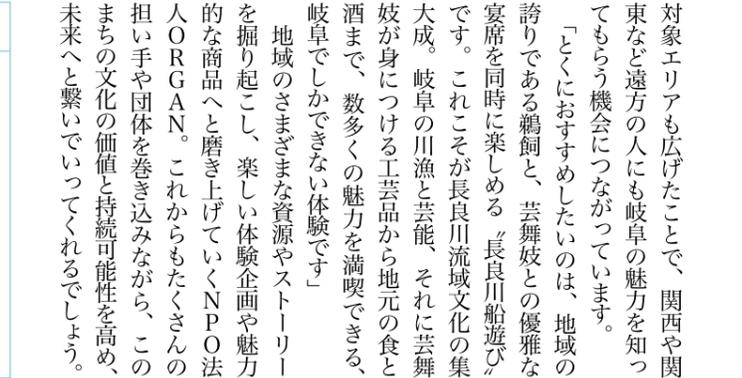
NPO法人ORGAN

長良川てしごと町家 CASA

【所在地】岐阜市湊町29
【営業時間】11時～18時
【定休】火曜・水曜
【電話】090-8335-9759
(和傘CASA)

長良川デパート

【所在地】岐阜市湊町45
【営業時間】10時～18時
【定休】火曜・年末年始
【電話】058-269-3858



文/藤原均 写真提供/NPO法人ORGAN デザイン/chica